

第3回育友会奨励賞 卒業年次生3人を表彰



久岡会長と握手する鴨原佑輔くん(右)

第3回育友会奨励賞の受賞者3団体6個人が発表された(表参照)。

表彰式は5月15日の定期総会で行われるが、これに先立ち、3月4日、久岡清太会長以下全役員が出席して神田キャンパスで、卒業する4年次生、鴨原佑輔くん、石倉友美さん、大峰ちひろさんの表彰を行った。

3人はいずれも学業やボランティア活動で優れた足跡を残した人たちで、喜びの中、久岡会長から賞状と副賞が手渡され、「今後ますます活躍されることを期待しています」と激励された。

第4回募集は9月末締め切り。詳細は掲示またはホームページで。

【ニュース専修3月号11面】

専大校友を訪ねて

春のセンバツに2回目出場 桐生第一高校公式野球部長 青柳 正志さん（昭54商）



今春の選抜高校野球大会に関東代表として春夏通算8回目の甲子園出場を果たした群馬県桐生第一高校硬式野球部。90年から部長を務め、99年夏の甲子園で優勝、昨夏もベスト4に進出し近年、強豪校としての地位を確立してきたチームを14年にわたり支えてきた。

自身も県立桐生高校在学中は野球部員として甲子園を目指していたこともある。専大では群馬県人会の立ち上げに尽力。「友人に恵まれた大学生活だった」と振り返り、その頃の仲間とは現在でも連絡を絶やさない。友人に誘われて履修した教職課程で、母校・大間々中学校での教育実習を経験。「教師になりたい」という思いを強め、卒業後は前身の桐丘高校に社会科教員として奉職。25年間教壇に立ち、生徒の指導にあたってきた。

85年の創部以来、普通科スポーツ系（硬式野球をはじめ4種目の専門的な体育理論と実技を学べるクラス）の設置や練習施設の充実といった学校の強力な後押しを受け、飛躍的に実力を伸ばしてきた同部。部長としての自らの役割を「監督、コーチが練習に集中出来るようにするための裏方です」と謙虚に語る。

練習試合や合宿のマネジメント、会計といった事務などのほか、試合中は、油断や「諦め」といったマイナスの雰囲気が見えた時にハツパをかけるのも大事な役割と心得る。福田治男監督とともに、「技術の向上に加えて『心』を鍛えることが大切」という信念で選手たちを見守ってきた。

創部からわずか6年後、初出場でベスト8入りを果たし、話題となった91年以来のセンバツ。「前回は満足のいく結果が残せましたが、油断から次の県予選では敗退。その時苦しんだ教訓が、現在の硬式野球部の原点です。その原点に還り、『心』の部分も含め、成長したところをみせたい」と語る一方、「春はあくまでも通過点」と話し、夏の甲子園出場という目標を見据えている。

【ニュース専修3月号11面】